

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和7年10月28日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	11月1日（土） 13:00～15:00	帝京大学	公開シンポジウム「ブラネタリーヘルスの視点で捉える気候変動と災害：コミュニティの役割と挑戦」
2	11月7日（金） 13:00～17:35	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	学術フォーラム「循環経済の実現に向けたものづくりの役割」
3	11月9日（日） 10:00～12:00	TKPガーデンシティ 幕張ホール	共同主催国際会議市民公開講座「光・電磁波関連技術がもたらす未来社会 見えない波で見る地球」
4	11月10日（月） 13:00～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「海洋生物と気候変動：現状と課題」
5	11月11日（火） 9:00～11:30	ハイブリッド （東京たま未来メッセ）	公開シンポジウム「界面反応に基づくバイオマテリアル研究開発」
6	11月15日（土） 12:30～17:35	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	公開シンポジウム「量子が世界を変える：科学の100年と未来への挑戦」
7	11月15日（土） 13:30～16:30	長野県立大学	公開シンポジウム「人口減少下の地域福祉と地方自治」
8	11月16日（日） 13:00～16:00	ハイブリッド （上智大学）	公開シンポジウム「トランプ関税と国際経済秩序」
9	11月16日（日） 14:00～17:00	一橋大学	公開シンポジウム「社会学のアウトリーチ」
10	11月22日（土） 13:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「国立自然史博物館設立をめざしてー自然史資料の保全、自然史科学の発展と将来への礎」
11	11月22日（土） 14:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「婚姻平等をめぐる司法と立法——国際比較と日本の課題」
12	11月22日（土） 15:00～17:30	ハイブリッド （一橋大学）	公開シンポジウム「女性活躍を支える家族のウェルビーイングとワークライフバランスの実現」
13	11月29日（土） 13:00～17:30	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	学術フォーラム「Future Earthと地球環境激変の10年：私たちはどこまで来たのか？これからどうすべきか？」
14	11月29日（土） 13:30～17:10	ハイブリッド （鳥取大学）	中国・四国地区会議学術講演会「持続可能な未来への挑戦：限界地域におけるイノベーションと総合知」
15	11月29日（土） 10:00～12:00	オンライン開催	公開シンポジウム「「土の教育」始めませんか？」
16	11月29日（土） 13:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「今求められる水田の地力向上と病害虫・雑草防除を考える」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



第40回 日本国際保健医療学会学術学会：いたばしから世界へ—地域社会に根差したSDGs
日本学術会議 & 日本国際保健医療学会 合同特別 市民公開シンポジウム

Special Public Symposium by the Science Council of Japan
& the Japan Association for Global Health

プラネタリーヘルスの 視点で捉える気候変動と災害 コミュニティの役割と挑戦

Climate Change and Disasters through the Lens of Planetary Health:
The Role and Challenges of Local Communities

入場無料

気候変動をはじめ急激に変化している地球環境の中、私たちの健康を守るためには、コミュニティの在り方を見つめ直す必要があります。シンポジウムでは、地球規模課題にコミュニティがどのように備え・対応し・変革を進めるのか、プラネタリーヘルスの視点から多様な立場で議論します。

日時

2025

11/1 土

13:00~15:00

場所

帝京大学 板橋キャンパス
臨床大講堂 (東京都板橋区加賀2-11-1
本部棟2階)

プログラム

【挨拶】 冲永佳史 (帝京大学 学長)、光石 衛 (日本学術会議 会長)、
小林 潤 (日本国際保健医療学会 理事長)

【座長】 橋爪真弘* (東京大学)、鹿嶋小緒里* (広島大学)

【パネリスト】

- 1 ショウ ラジブ (慶應義塾大学)
レジリエントなコミュニティのためのサイロの打破：
温暖化が進む世界における地球の健康、気候適応、
リスクガバナンス
- 2 山内太郎* (北海道大学)
地域共創によるサニテーションの仕組みづくり：
プラネタリーヘルス時代のボトムアップ・アプローチ
- 3 神原咲子* (神戸市立看護大学)
プラネタリーヘルスからセルフケアと
プライマリヘルスケアを見直す災害看護
- 4 三井元子 (NPO法人あらかわ学会)
荒川流域における市民の活動

【指定発言】 中村安秀 (日本WHO協会)、森口育子 (兵庫県立大学)

【閉会挨拶】 中村桂子* (日本学術会議 環境リスク分科会 委員長)

* 日本学術会議連携会員



市民公開シンポジウムのみ参加は無料

申し込みはこちら ▶▶▶

【6. 市民公開講座のみ】を選択し、メール
アドレス、氏名、所属名を入力してお申し込みください。

※学会の他プログラム参加には「学会参加登録費」が必要です。



【大会事務局】 帝京大学薬学部 環境衛生学研究室
〒173-0003 東京都板橋区加賀2-11-1

【学術大会運営事務局】 株式会社プライムインターナショナル内
〒141-0022 東京都品川区東五反田1-10-4 エムアイビル4F
Tel: 03-6277-0117 E-mail: 40jagh@pco-prime.com



学会HP

【主催】 日本学術会議 環境リスク分科会、
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、
防災減災学術連携委員会、日本国際保健医療学会、
帝京大学

【後援】 プラネタリーヘルスアライアンス日本ハブ



日本学術会議主催学術フォーラム 循環経済の実現に向けた ものづくりの役割

持続可能な社会実現に向けて、循環経済実現の必要性が叫ばれており、国民的関心も高まっている。その実現のためには、資源を消費し、また将来廃棄物となる工業製品を作り出す製造業の構造転換が不可欠である。それは、資源の循環的な活用だけでなく、ものづくりベースのサービス提供産業への転換によって初めて成し遂げられる。同時に、消費者による受容、消費者との連携も必要不可欠な課題である。第三部機械工学委員会生産科学分科会では、循環経済に代表される持続可能な社会実現に向けた製造業の在り方、消費者との連携を含む製造業が取るべきアクションについて議論してきた。

これらの議論の結果を踏まえ、本フォーラムでは、このような製造業の構造転換の必要性、実現可能性、実現に向けた課題について、人文・社会科学、工学の視点から総合的に議論し、広く国民の意見を聴取し、双方向の対話を行うことを目的とする。

令和7年
11月7日 金
13:00 ~ 17:35

ハイブリッド開催(参加費無料)

会場 **日本学術会議講堂**
東京都港区六本木 7-22-34

Web リモートで

申込み <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0333.html>
申込み締切 11月4日(火) 事前参加登録をお願いします。



プログラム

13:00 ~ 13:05

開会挨拶・趣旨説明

光石 衛 (日本学術会議会長／独立行政法人大学改革支援・学位授与機構理事／東京大学名誉教授)

13:05 ~ 13:10

開会挨拶

三牧 純一郎 (経済産業省 G Xグループ資源循環経済課長)

13:10 ~ 13:15

開会挨拶

池田 三知子 (一般社団法人日本経済団体連合会 環境エネルギー本部長)

13:15 ~ 13:45

話題提供 1：循環経済を実現する持続可能なものづくり

梅田 靖 (日本学術会議連携会員／東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻教授)

13:45 ~ 14:15

話題提供 2：“つながる”製造業の課題 ～システムからエコシステムへ～

藤田 喜久雄 (日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻教授)

14:15 ~ 14:45

話題提供 3：循環経済に向けた東芝の取組みと生産技術の進化

佐田 豊 (日本学術会議第三部会員／株式会社東芝上席常務執行役員 CTO)

14:45 ~ 15:15

話題提供 4：サステナブルな産業構造に向けて～環境保全を新たな産業発展の契機とするには？

諸富 徹 (日本学術会議連携会員／京都大学大学院公共政策大学院教授)

15:15 ~ 15:45

話題提供 5：循環経済を企図した消費者コミュニケーション

西尾 チヅル (日本学術会議連携会員／筑波大学副学長・ビジネスサイエンス系教授)

15:45 ~ 16:00

休憩

16:00 ~ 17:30

パネルディスカッション

持続可能な社会の中の製造業のありたき姿

モデレーター 松原 厚 (日本学術会議連携会員／京都大学大学院工学研究科マイクロエンジニアリング専攻教授)

パネリスト 上記講演者

宮崎 克雅 (株式会社日立製作所生産・モノづくりイノベーションセンタ主管研究員)

17:30 ~ 17:35

閉会挨拶

須藤 雅子 (日本学術会議第三部会員／ファナック株式会社 FA 研究開発統括本部技監)

17:35

閉会

主催 日本学術会議

問い合わせ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 Tel 03-3403-6295

光・電磁波関連技術がもたらす未来社会

見えない波で見る地球

科学の進歩で安心と環境を守る社会へ



無料

定員 250名
先着順



わかりやすく
解説！

市民公開講座

電磁波による地震調査方法や天気予報から見る
地球環境についてわかりやすく説明します。

講演



電磁気で地震を予測できるのか！？
～短期地震予測への挑戦～

服部 克巳

千葉大学 大学院 理学研究院 教授

一般市民の皆さま
を対象とした
公開講座です！



天気予報が出来るまで
～観測と感測を支える電磁波技術～

安部 大介

株式会社ウェザーニュース
執行役員・サービス統括責任者

1986年設立
世界最大級
民間
気象会社

あの
ウェザーニュース
の専門家が
登壇！

2025 11.9(日)

10:00 ～ 12:00 事前申込制

会場

アパホテル&リゾート東京ベイ幕張 内
TKPガーデンシティ幕張ホール

千葉市美浜区ひび野 2-3

対象

中学生以上のどなたでもご参加いただけます。

お申し込み・お問い合わせは

お申し込み

右記フォームにアクセスし、
必要事項を入力の上送信してください。

申込締切：10月31日（金）

お問い合わせ

PIERS 2025 Chiba 運営事務局
株式会社 コンベンションリンケージ

Email : piers2025_secretariat@c-linkage.co.jp

TEL : 011-272-2151

お申込フォーム



主催

一般社団法人 電子情報通信学会 / 電磁波工学アカデミー / 日本学術会議

後援

千葉県 / 千葉市 / 千葉大学 / 千葉工業大学 / 千葉県教育委員会 /
千葉市教育委員会 / (公財) ちば国際コンベンションビューロー

第1回「海洋生物と気候変動：現状と課題」

開催情報

日時：令和7年11月10日（月）
13:00~16:00
方法：オンラインのみ

主催・共催・後援

主催：基礎生物学委員会・統合生物学委員会
合同海洋生物学分科会

共催：地球惑星科学委員会、食料科学委員会
水産学分科会、自然史・古生物分科会

後援：生物科学学会連合、日本地球惑星科学
連合、環境省、文科省

趣旨

身近な生物を題材にした
「海洋生物と気候変動：現状と課題」・
「海洋生物と気候変動：解決と適応」・
「海洋生物と気候変動：考えるべき倫理」
の3回に分けて、一般市民向けのシリーズ
公開シンポジウムを開催します。

第1回「現状と課題」では、北海道や沖縄な
ど国内や日本周辺海域で顕在化している温暖
化の影響に焦点を当てながら、気候変動の現
状が海洋生物と生態系に与えている具体的な
影響を多面的に検討します。人々の生活や水
産業に関連する生物多様性の変化を示し、緊
急に解決が必要な課題を提示します。

次第

13:00-13:10 開会挨拶・開催趣旨説明（10分）

日本学術会議連携会員・海洋生物学分科会委員長（原田 尚美）

13:10-14:40 基調講演（90分）

高木 聖実（国立研究開発法人 水産研究・（案）」教育機構 水産資源研究所
水産資源研究センター 社会・生態系システム部沿岸生態系寒流域グループ）

「亜寒帯域の温暖化による沿岸漁業への影響について

美山 透（JAMSTEC）

「沿岸域での海洋熱波の発生メカニズムと生物への影響（案）」

栗原 晴子（琉球大学理学部）

「サンゴ礁と温暖化・海洋酸性化：複合要因による影響（案）」

14:40-14:50 休憩（10分）

14:50-15:40 パネルディスカッション（50分）

テーマ：「沿岸域の生態系変化と水産業への影響」

パネリスト：基調講演者＋モデレータ

15:40-16:00 質疑応答（20分）

16:00 閉会挨拶 日本学術会議連携会員・海洋生物学分科会副委員長（安田 仁奈）

参加申し込み方法

<https://docs.google.com/forms/d/1AtCS2DBbyfJepgFvqdcpljLiLKx4AQeovGjjcK9HKnoY/edit?ts=68db69db>

問い合わせ先:

原田 尚美 naomi.harada@aori.u-tokyo.ac.jp

安田 仁奈 27Yasuda@g.ecc.u-tokyo.ac.jp



2025 **11/11** Tue.
9:00 - 11:30 a.m.

東京たま未来メッセ Tokyo Tama-Mirai-Messe

参加費無料、ハイブリッド開催
現地参加は事前申込不要
オンライン参加申込はこちらから

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAU4kTMs7kYWDC35q1RJlpiH6j44a3tBZvFMADw/viewform>

申込×切：10/31(金)



プログラム

1.開会挨拶

埜 隆夫

(日本学術会議第三部会員、バイオマテリアル分科会委員長、大阪大学特任教授、神戸大学客員教授)

2.バイオマテリアル界面科学の構築

司会：**石原 一彦**

(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科特任教授、東京大学名誉教授)

「バイオマテリアルDX」 **川下 将一**

(東京科学大学総合研究院教授)

「生体模倣に基づくバイオ界面機能デザイン」 **大矢根 綾子**

(日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所材料基盤研究部門総括研究主幹)

「バイオ界面で機能するポリマーマテリアルの創出」 **岩崎 泰彦**

(関西大学化学生命工学部教授)

「固体表面機能創出・界面バイオ反応制御」 **松垣 あいら**

(大阪大学大学院工学研究科准教授)

「骨形成界面に資するバイオマテリアル」 **松本 卓也**

(日本学術会議連携会員、岡山大学学術研究院医歯薬学域教授)

3.界面現象に基づくバイオマテリアルの研究開発

司会：**岸田 晶夫**

(日本学術会議連携会員、東京科学大学総合研究院プロジェクト教授)

「バイオミメティックポリマーの創出と医療機器への実装」 **石原 一彦**

(日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科特任教授)

「炭酸アパタイト人工骨の創製」 **石川 邦夫**

(日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院教授)

「骨基質配向化デバイスの創製」 **中野 貴由**

(日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授)

「バイオマテリアルを用いたティッシュエンジニアリングの新展開」 **清水 達也**

(東京女子医科大学先端生命医科学研究所所長)

4.閉会挨拶

石川 邦夫

(日本学術会議連携会員、日本バイオマテリアル学会会長、九州大学大学院歯学研究院教授)

主 催 日本学術会議バイオマテリアル分科会、生体医工学分科会

材料工学委員会、機械工学委員会、臨床医学委員会、歯学委員会、化学委員会、基礎医学委員会、電気電子工学委員会

共 催 日本バイオマテリアル学会

後 援 医薬品医療機器総合機構 (PMDA)

協 賛 日本人工臓器学会、日本歯科理工学会、日本金属学会、日本セラミックス協会、繊維学会、高分子学会、日本MRS
日本再生医療学会、日本DDS学会、日本骨代謝学会、ライフサポート学会、スマートプロセス学会

界面反応に基づくバイオマテリアル研究開発



量子が世界を変える

科学の100年と 未来への挑戦

令和7年

11月15日 12:30 ~ 17:35



会場 日本学術会議講堂・ハイブリッド
東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ千代田線 乃木坂駅5番出口

申込方法 オンライン登録
<https://forms.gle/dhs5S2r8u4CmhX1w5>

量子力学誕生から100年を迎える2025年、物理学は素粒子から宇宙、計測技術、産業応用まで幅広く発展を遂げています。このシンポジウムでは、量子技術の最前線を紹介し、基礎科学が未来社会に果たす役割を考察します。また、基礎研究の重要性を広く共有し、次世代育成に向けた課題を参加者と共に議論します。物理学の可能性をわかりやすく伝え、未来を築く一歩となる場を目指します。

12:30 ~12:50 挨拶 趣旨説明

腰原 伸也 第三部会員 物理学委員会委員長 東京科学大学理学院 教授
光石 衛 日本学術会議会長 第三部会員 東京大学 名誉教授
宮下 精二 日本物理学会会長 東京大学 名誉教授

第1セッション

12:50 ~14:20 量子力学100年の軌跡と未来

司会 網塚 浩 連携会員 北海道大学大学院理学研究院 教授

伊藤 憲二 京都大学大学院文学研究科 教授
量子力学の誕生：
どのような世界がそれを引き起こし、どのように世界を変えたか

大竹 真紀子 岡山大学惑星物質研究所 教授
情報科学技術を用いた月探査ミッションデータの地質解析

中村 泰信 理化学研究所量子コンピュータ研究センター センター長
量子力学の世紀から量子情報科学の世紀へ

第2セッション

14:40 ~16:10 物理学の挑戦：知がつなぐ未来

司会 山崎 祐司 連携会員 神戸大学大学院理学研究科 教授

横山 将志 東京大学大学院理学系研究科 教授
地下から素粒子と宇宙をみる：ハイパーカミオカンデの挑戦

坂井 南美 連携会員 理化学研究所 主任研究員
電波で探る太陽系環境の起源：意図せぬ展開の重要性

梅垣 いづみ KEK 物質構造科学研究所 助教
大強度陽子加速器施設 J-PARC における
ミュオンビームの探究と応用

第3セッション

16:30 ~17:30 物理で描く未来の自分

司会 浅井 歩 連携会員 京都大学大学院理学研究科
附属天文台 准教授

モデレーター 森 初果 第三部会員 東京大学物性研究所 教授

コメンテーター 奥村 幸子 第三部幹事 日本女子大学理学部 教授

新永 浩子 連携会員 物理教育分科会委員長
鹿児島大学理工学研究科 准教授

17:30 ~17:35 閉会挨拶

櫻井 博儀 第三部会員・物理学委員会副委員長・理化学研究所
仁科加速器科学研究センター センター長

共催

一般社団法人日本物理学会
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構
京都大学基礎物理学研究所
東京大学宇宙線研究所
東京大学物性研究所
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所
大阪大学核物理研究センター
九州大学応用力学研究所
学術変革領域研究(A)「アシンメトリ量子」

後援

公益社団法人日本天文学会
大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所
大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台



2025年度 日本学術会議公開シンポジウム

「人口減少下の地域福祉と地方自治」

2025年

11月15日（土） 13:30-16:30

長野県立大学（三輪キャンパス）北棟講堂

参加費
無料

13:30 ～ 13:35 開会挨拶

嶋田 暁文

■ 日本学術会議連携会員
日本地方自治学会理事
九州大学大学院教授



13:35 ～ 16:20 報告・質疑

報告者



北山 俊哉

■ 日本学術会議連携会員
日本地方自治学会会員
関西学院大学教授

報告者



関 昇一郎

■ 長野県副知事

報告者



岩永 理恵

■ 日本学術会議連携会員
日本女子大学教授

報告者



藤井 えりの

■ 日本地方自治学会会員
岐阜協立大学准教授

司会・総括



森 裕之

■ 日本地方自治学会理事
立命館大学教授

16:20 ～ 16:30 全体総括

16:30 閉会

主 催

日本学術会議 政治学委員会 人口減少下の行政・地方自治分科会
日本地方自治学会

トランプ関税と 国際経済秩序

日時／令和7年 **11月16日(日)** 13:30～16:30

場所／**上智大学** 四谷キャンパス 紀尾井坂ビルB-210

下記Webサイトのキャンパスマップの右上、28番の建物

<https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/access/campus/>

※正門または北門から入構し、11号館ピロティ奥の入口から紀尾井坂ビルにお進みください

開催方法／ハイブリッド

開催趣旨

今春、米国トランプ大統領は、米国政府が輸入品に課す関税を大幅に引き上げる、いわゆる「トランプ関税」を公表した。

これは対米貿易黒字を計上している国の対米輸出を縮小しつつ、海外の生産拠点を米国に還流して米国の製造業を再生し、労働者の就職機会を拡大することを狙いとしたものである。公表後、トランプ政権は、同措置の発動に猶予期間を設定し、その間、二国間のディールを通じて米国に有利となるように関税率を再設定しようとしている。

こうした超大国の交渉戦略は、世界貿易機関(WTO)法や同法を含む現代の国際経済秩序に通底する法の支配や多国間主義に反するもので、世界経済に深刻な打撃を与えることが懸念されている。

本シンポジウムは、世界を震撼させているトランプ関税を取り上げ、多角的に議論する。

スケジュール

開 会 13:30

開会の辞 13:30～13:40 都留 康子 (上智大学総合グローバル学部教授)

進行／服部 莉奈 (上智大学大学院法学研究科博士後期課程 日本学術振興会特別研究員(DC))

第一部 講演 13:40～15:15

「多国間貿易体制の今後—『85%』のための国際ルール—」 川瀬 剛志 (上智大学法学部教授)

「変容する国際通商秩序とシナリオ分析」 飯田 敬輔 (政策研究大学院大学特別教授)

「トランプ関税の経済学的分析」

石川 城太 (学習院大学国際社会科学部教授(日本学術会議連携会員) 一橋大学社会科学高等研究院特任教授)

休憩

「トランプ2.0と中国の夢」 宗像 直子 (東京大学公共政策大学院教授)

「貿易ネットワークの変化と日本」 鈴木 一敏 (上智大学総合グローバル学部教授)

「トランプ関税の国内政治」 鈴木 基史 (京都大学名誉教授(日本学術会議会員))

休憩

第二部 ラウンドテーブルと質疑応答 15:30～16:25 全登壇者

閉会の辞 16:25～16:30 鈴木 基史

申込み・問い合わせ

問い合わせ先／sympo20251116@gmail.com

申込みフォーム／<https://forms.gle/UrQRJqHAYM8jt6Z19>

※ウェビナー参加者は**11月15日正午迄に要事前申込**(同日20時迄にウェビナー情報を送付予定)

※対面参加者は事前申込不要



申込みフォーム

主 催／日本学術会議政治学委員会、日本学術会議経済学委員会

共 催／上智大学国際関係研究所

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究A

「分断する国際政治における国際協調とガバナンスの政治経済分析」(代表: 鈴木基史、令和5～8年度)

公開シンポジウム 「社会学のアウトリーチ」

日時：令和7年（2025年）年11月16日（日）14：00～17：00

場所：一橋大学国立キャンパス西キャンパス第1講義棟401

（東京都国立市中2-1）

どなたも無料で参加できます。

近年、学術のアウトリーチ（研究成果の社会的還元・普及活動）や社会実装への関心が高まっている。社会学に関してもこれは例外ではなく、社会学の分析視角、理論、研究手法等を活かした研究成果が、現実社会のさまざまな課題・問題の理解や解決にどのように貢献し得るのかに、多くの関心が持たれるようになっていく。こうした状況を踏まえ、本シンポジウムでは、社会学がどのように現実社会と関わり、社会的な還元を果たし得るのかを、社会学とその視角に基づく貴重な実践を行っている方々の報告とディスカッションを通じて考えていくことを試みる。本シンポジウムを通じて、社会学のアウトリーチとその展開可能性について新たな理解が得られることを期待したい。

プログラム：

総合司会：遠藤薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）

14:00 開会の挨拶 山田真茂留（日本学術会議連携会員／早稲田大学教授）

開催趣旨説明 遠藤薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）

報告

14:05 「社会学研究を社会にどう還元するか―〈生きづらさ〉の臨床社会学より」 中村英代（日本大学文理学部教授）

「被差別当事者の人生体験の語りを聞く―『ハンセン病家族訴訟』の伴走者として」 黒坂愛衣（東北学院大学地域総合学部教授）

「社会学ならではの災害をめぐる研究と実践―東日本大震災被災地と継続的に関わってきた経験を中心に」 野坂真（青森公立大学経営経済学部准教授）

「社会学は日本政府の政策を改善できるか？―実態・可能性・課題」 柴田悠（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

総合討論

15:25 司会

筒井淳也（日本学術会議連携会員／立命館大学産業社会学部教授）

有田伸（日本学術会議第一部会員／東京大学社会科学研究所教授）

討論者

渡邊雅子（日本学術会議連携会員／名古屋大学大学院教授）

中村高康（日本学術会議連携会員／東京大学大学院教授）

16:55 閉会の挨拶 遠藤薫（日本学術会議連携会員／学習院大学名誉教授）

主催：日本学術会議社会学委員会課題解決のための社会理論
分科会、一般社団法人日本社会学会

国立自然史博物館設立をめざして－ 自然史資料の保全、自然史科学の発展と将来への礎

公開シンポジウム



日時：令和7（2025）年11月22日（土）13:00～17:00

場所：オンライン開催

主催：日本学術会議自然史、古生物学分科会、動物科学分科会、海洋生物学分科会、進化学分科会、植物科学分科会、IUBS 分科会

共催：一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会、日本分類学会連合、自然史学会連合

参加費：無し 下記 URL または右の QR コードから事前登録してください

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScDzv2UpYGOjcS-yP4QmdYfJoJldUK5RbffX0acXGH_xQ88lwA/viewform?usp=header

11月20日登録締め切り(定員になり次第締め切ります)



開催趣旨：国立自然史博物館の設立は長く自然史研究者の念願であった。近年、自然史資料はその収蔵施設が不足する中、貴重な標本類が急速に失われているのが実情である。また、自然史科学は自然の多様性の把握とその起源・進化を明らかにする学問として発展しつつあり、その研究の中心機関として国立自然史博物館の設立は急務である。過去の動植物相の変遷を知り、現在から未来にわたってその変化をモニターするために蓄積されるべきデータは、生物多様性を把握し地球環境の保全にも役立つ自然史博物館が持つべき重要な機能の一つで、わが国の持続可能性に寄与するだけでなく、次世代教育を含めた社会貢献にも欠かせないものである。本シンポジウムでは国立自然史博物館の設立に向けて、長く自然史研究に携わってきた研究者を中心に、国立自然史博物館の必要性を訴えていただくと同時に、国立自然史博物館を実現するために多様な分野の研究者で力を合わせ、具体的に何をすべきかを議論することを目的とする。

総合司会：大路 樹生（日本学術会議連携会員）

13:00 開会の挨拶 磯 博康（日本学術会議副会長）

13:10 趣旨説明 大路 樹生

第1部「自然史研究の重要性と問題点」

13:20 講演「自然史研究の一次資料はどれほど大学から失われたのか」
堀 利栄（日本学術会議第三部会員）

13:40 講演「自然史研究の醍醐味 新しいテクニックを用いた研究から見てきたこと」
三上 智之（国立科学博物館地学研究部）

14:00 講演「国立自然史博物館の研究機関としての役割」
遠藤 一佳（東京大学大学院理学系研究科教授）

14:20 講演「国立沖縄自然史博物館設立を目指して」－設立準備運動に携わってきた立場から
岸本 健雄（一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会代表理事）

14:40 講演「進化学分野から国立自然史博物館に求めたいこと」
石川 麻乃（日本学術会議連携会員）

15:00～15:20 休憩

第2部「総合討論」

15:20 パネラー

西田 治文（日本学術会議連携会員）

村上 哲明（日本学術会議連携会員）

久保田 好美（日本学術会議連携会員）

堀 利栄 三上 智之・遠藤 一佳・岸本 健雄・石川 麻乃

16:45 閉会の挨拶 大路 樹生



公開シンポジウム
「婚姻平等をめぐる司法と立法——国際比較と日本の課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会社会と教育における LGBTI の権利保障分科会、史学委員会ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会、法学委員会ジェンダー法分科会
2. 共 催：科学研究費基盤研究（C）研究代表者 三成美保「戦後日独における家族主義とセクシュアリティ規範の比較研究——LGBT の差別解消に向けて」
3. 後 援：日本ジェンダー学会、ジェンダー法学会、ジェンダー史学会、比較家族史学会
4. 日 時：令和 7（2025）年 11 月 22 日（土）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：オンライン開催（ウェビナー）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨

同性間に法的な婚姻を成立させていない現行法の違憲性について最高裁判所が来年にも判断を示すものとみられる。すなわち、日本でも婚姻を平等に同性間にも成立させるべきかどうかについて司法が結論を下す日が近づいている。これまで 5 つの高裁判決では現行法を違憲と判断していることから、最高裁でも違憲判断を示す可能性が高まっている。

本シンポジウムでは、そうした時点において司法はどのような判断を示すべきか、その後に想定される立法の内容などをめぐって憲法学、民法学の視点から論点を整理し、この問題をめぐる世論の動向、比較法的な状況からコメントを加え、訴訟の原告の声に耳を傾けた上で、広く議論する。

なお、本分科会ではこのシンポジウムでの議論を踏まえて、来年にも婚姻平等に関して日本が進むべき方向性について見解を示す準備をしている。

9. 次 第：

14:00～14:05 開会挨拶 三成 美保（日本学術会議連携会員／追手門学院大学教授／奈良女子大学名誉教授）

14:05～14:15 趣旨説明 鈴木 賢（日本学術会議連携会員／明治大学法学部教授）

14:15～15:15 報告（各 30 分）

1. 憲法と婚姻平等 大野 友也（愛知大学法学部教授）

2. 民法と婚姻平等 渡邊 泰彦（明治大学法学部教授）

15:15～15:25 休憩

15:25～16:10 コメント（各 15 分）

1. 同性婚をめぐる世論調査を踏まえたコメント 釜野 さおり（日本学術会議連携会員／早稲田大学社会科学総合学術院教授）

2. 比較法的視点からのコメント 谷口 洋幸（日本学術会議連携会員／青山学院大学法学部教授）

3. 原告からのコメント 一橋 穂、武田 八重（「結婚の自由をすべての人に訴訟」東京二次提訴原告）

16:10～16:55 パネル討論 報告 2 名＋コメント 3 名

司会 鈴木 賢（日本学術会議連携会員／明治大学法学部教授）

16:55～17:00 閉会挨拶 南野 佳代（日本学術会議第一部会員／京都女子大学法学部教授）

総合司会 大河内 美紀（日本学術会議連携会員／名古屋大学法学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認済

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

女性活躍を支える 家族のウェルビーイングと ワークライフバランスの実現

男女を問わず、ワークライフバランスを実現する働き方の構築は、今日の日本社会の喫緊の課題である。近年、女性の就業において正規雇用が増加し、管理職など中核的ポジションへの進出も進んでいる。一方で、長時間労働や働き方の在り方が家庭内の育児・家事分担や子どものウェルビーイングに影響を及ぼし、新たな社会的課題として注目されている。本シンポジウムでは、家族のウェルビーイングを実現・維持するために有効な働き方の展望と、それに向けた支援体制のあり方について、最新の研究成果を共有する。さらにパネルディスカッションを通じて議論を深め、実践的な政策提言につなげることを目指す。

2025
11.22 (土) 15:00-17:30
(開場14:30)

プログラム

15:00 挨拶 野口貴公美 一橋大学理事・副学長／一橋大学教授

15:05 趣旨説明 白井恵美子 日本学術会議会員／一橋大学経済研究所教授

15:10 講演
「女性管理職とワークライフバランス」
奥田 純子 長野大学講師

15:30 講演
「ワークライフバランスに寄与する資産づくり」
角谷 快彦 日本学術会議連携会員／広島大学ディスティングイッシュト・プロフェッサー

15:50 講演
「親の帰宅時間と子どものウェルビーイング」
大石亜希子 日本学術会議連携会員／千葉大学教授

16:10 休憩（10分）

16:20 総合討論（パネルディスカッション）
＜座長＞白井恵美子 日本学術会議会員／一橋大学経済研究所教授
＜パネル討論者＞
永瀬 伸子 日本学術会議連携会員／大妻女子大学教授
安井 健悟 日本学術会議連携会員／青山学院大学教授
井上 恵理菜 日本総合研究所 調査部副主任研究員
横山 泉 一橋大学教授

17:20 閉会挨拶 永瀬伸子 日本学術会議連携会員／大妻女子大学教授



野口貴公美
一橋大学 理事・副学長
一橋大学教授



白井恵美子
日本学術会議会員
一橋大学経済研究所教授



奥田純子
長野大学講師



永瀬伸子
日本学術会議連携会員
大妻女子大学教授



角谷快彦
日本学術会議連携会員
広島大学ディスティングイッシュト・
プロフェッサー



大石亜希子
日本学術会議連携会員
千葉大学教授



安井健悟
日本学術会議連携会員
青山学院大学教授



井上恵理菜
日本総合研究所
調査部副主任研究員



横山 泉
一橋大学教授

一橋講堂 1階特別会議室
（オンラインにて同時配信）
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター内



対象：どなたでも参加いただけます 定員：対面50名／オンライン100名

参加費無料・要事前申込

申込期日：2025年11月10日（月）

※以下の申込フォームより申し込み

<https://forms.gle/cKpoCbC5mUbNYzZb9>



お問い合わせ：一橋大学経済研究所 <https://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/>



日本学術会議主催学術フォーラム

Future Earthと 地球環境激変の10年：

私たちはどこまで来たのか？ これからどうすべきか？

地球環境変化に関する複数の大きな国際研究プログラムが合併して Future Earth が発足し、今年で 10 年目を迎える。この間、Future Earth と関連の研究は、各専門分野において、また分野融合の学際研究や社会との超学際研究において、国際的にも日本国内でも目覚ましい発展を見せた。日本学術会議にも複数の関連する委員会等を設置し、研究者や社会の関係者との交流を促進し、フューチャー・アース日本委員会や国際事務局との連携も深めてきた。しかし、研究者の努力と警告に関わらず、大気、海洋、雪氷圏、陸水、そして人類を含む生態系が直面する地球環境の問題は、一層厳しさを増している。

この 10 年間を振り返り、研究ネットワークとしての Future Earth の成果を評価すると同時に、何が課題だったのか、今後必要な活動は何かをアカデミアと社会の関係者とともに真摯に洗い出し、今後、新たな 10 年間に、地球社会に貢献することを意図し、学術フォーラムを開催する。

(会場)

日本学術会議講堂
東京都港区六本木7-22-34

ハイブリッド開催



リモート参加

(お申込み)

事前申し込みは下記 URL または QR コードから
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0337.html>
申込締切 11月25日(火) 事前参加登録をお願いします。



主 催：日本学術会議

後 援：文部科学省

Future Earth 国際事務局日本ハブ
フューチャー・アース日本委員会

令和7年

11月29日(土)

13:00 ~ 17:30

参加費無料

問合せ：日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 ☎03-3403-6295

Future Earthと地球環境激変の10年： 私たちはどこまで来たのか？これからどうすべきか？

日本学術会議主催学術フォーラム



プログラム 司 会 張 勁 (日本学術会議連携会員、富山大学副学長／学術研究部理学系教授)

13:00 ～ 13:05	開会挨拶ならびに趣旨説明	中村 尚	(日本学術会議連携会員、東京大学先端科学技術研究センターシニアリサーチフェロー (特任研究員))
13:05 ～ 13:10	来賓挨拶	山口 顕	(文部科学省研究開発局環境エネルギー課課長)
第一部			
司 会		張 勁	(日本学術会議連携会員、富山大学副学長／学術研究部理学系教授)
13:10 ～ 13:30	「2015 年の Future Earth」	安成 哲三	(日本学術会議元会員、総合地球環境学研究所前所長、京都気候変動適応センター長)
13:30 ～ 13:50	「2025 年の Future Earth」	春日 文子	(日本学術会議連携会員、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授、Future Earth 国際事務局日本ハブ)
		Ria Lambino	(総合地球環境学研究所 Future Earth センター長、Future Earth 国際事務局日本ハブ)
13:50 ～ 14:10	「統合的成果 1 - 10 New Insights in Climate Science, perspectives on biosphere 他」	Giles B. Sioen	(東京大学大学院新領域創成科学研究科特任講師、Future Earth 国際事務局日本ハブ)
14:10 ～ 14:30	「統合的成果 2 - グローバルな課題と日本発の特色ある研究」	谷口 真人	(日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所特任教授)
14:30 ～ 14:50	「科学と社会の協働」	江守 正多	(日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授)
14:50 ～ 15:10	休憩		
第二部			
司 会		近藤 康久	(日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所教授)
15:10 ～ 15:20	「GRN の成果と課題 - Future Earth Coasts」	張 勁	(日本学術会議連携会員、富山大学副学長／学術研究部理学系教授)
15:20 ～ 15:35	「GRN の成果と課題 - iLEAPS/GCP」	近藤 雅征	(広島大学 IDEC 国際連携機構准教授)
15:35 ～ 15:45	「GRN の成果と課題 - I M B e R」	齊藤 宏明	(日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所附属国際・地域連携研究センター教授)
15:45 ～ 15:55	「GRN の成果と課題 - Urban KAN」	福士 謙介	(日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授／センター長)
15:55 ～ 16:05	「GRN の成果と課題 - Finance & Economics KAN」	昔 宣希	(長崎大学大学院総合生産科学研究科准教授、Future Earth 国際事務局日本ハブ)
16:05 ～ 16:15	「フューチャー・アース 日本委員会の意義」	浅利 美鈴	(日本学術会議連携会員、総合地球環境学研究所教授)
16:15 ～ 16:30	休憩		
第三部			
16:30 ～ 17:25	パネルディスカッション・総合討論 テーマ「2035 年の Future Earth への期待」		
	ファシリテーター	亀山 康子	(日本学術会議連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授／サステナブル社会デザインセンターセンター長)
	パネリスト	金谷 有剛	(日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構地球環境部門地球表層システム研究センターセンター長、Future Earth 国際事務局日本ハブ)
		蟹江 憲史	(日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授／慶應義塾 Keio STAR 共同代表)
		河宮 未知生	(海洋研究開発機構 地球環境部門環境変動予測研究センターセンター長／東北大学変動海洋エコシステム高等研究所教授)
		高藪 縁	(日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
		渡部 雅浩	(東京大学大気海洋研究所教授)
		山本 百合子	(日本学術会議特任連携会員、公益財団法人イオン環境財団専務理事兼事務局長)
17:25 ～ 17:30	閉会挨拶	沖 大幹	(日本学術会議第三部部長、東京大学大学院工学系研究科教授)
17:30	閉会		

日本学術会議 中国・四国地区会議 学術講演会

持続可能な 未来への挑戦

限界地域における イノベーションと総合知

入場
無料

令和7年

11月29日(土)

13:30~17:10

会場

鳥取大学

鳥取キャンパス 工学部講堂

(鳥取県鳥取市湖山南4丁目101番地)

オンライン配信での視聴も可能です。

現在、多くの地域では、少子高齢化、資源の枯渇、環境問題など、複合的な課題に直面しています。こうした「限界地域」が抱える課題を克服し、持続可能な社会を築くためには、特定の分野にとどまらない多様な知識や知恵を融合させた「総合知」が不可欠です。本講演会では、学術、行政、医療など各分野の第一線で活躍されている方々をお招きし、それぞれの立場から限界地域における新たな価値の創出、イノベーション、そして未来に向けた挑戦についてご講演いただきます。

この講演会を通じて、私たちは、未来の地域社会をどう築いていくべきか、そしてそのためにはどのような学術的行動が必要なのか、「課題先進地域」である鳥取から未来社会に資する新たな知と行動について参加者の皆様とともに考えを深めていきたいと考えます。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

プログラム

●開会挨拶 13:30~13:45

磯 博康
原田 省

日本学術会議副会長・第二部会員、国立健康危機管理研究機構
国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長・理事長特任補佐
鳥取大学学長

●趣旨説明 13:45~13:50

恒川 篤史

日本学術会議連携会員、鳥取大学理事・副学長

●講演 13:50 ~ 16:30 (各25分)(休憩:15:05~15:15)

①「地球規模の限界地問題：食糧危機克服に向けた学術的アプローチ」

辻本 壽

日本学術会議連携会員、鳥取大学学長顧問・特任教授・名誉教授

②「スマート農業が切り拓く、限界地域の農業イノベーション」

竹村 圭弘

鳥取大学農学部准教授

③「生物多様性の保全をビジネスにするという考え：持続可能な地域社会への貢献」

小林 朋道

公立鳥取環境大学学長

④「人口最少県におけるトップクラスの最先端手術と人材育成：地域医療の未来」

武中 篤

鳥取大学副学長・医学部附属病院長

⑤「30年後の鳥取を創る：若手県職員の地域づくりへの挑戦」

奥野 絵美

鳥取県とっとり未来創造タスクフォース係長

⑥「「エデュテインメント」の可能性：ワクワク・夢中が導く学ぶ力」

熊埜御堂 朋子

鳥取大学理事

●総合討論：未来の地域社会をどう築いていくべきか 16:30~17:00

モデレーター

恒川 篤史

●閉会挨拶 17:00~17:10

藪田 ひかる

日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、
広島大学大学院先進理工系科学研究科教授

参加希望の方は11月21日(金)までに下記URLまたはQRコードより、申し込みをお願いいたします。

申し込み締め切り

11/21(金)

申込フォームURL

<https://forms.gle/UrojgTzQX9mnujqn6>



お問合せ先

鳥取大学 研究推進部 研究推進課

TEL.0857-31-5609 E-Mail ken-somu@ml.adm.tottori-u.ac.jp

●主催：日本学術会議中国・四国地区会議 ●共催：国立大学法人鳥取大学 ●後援：鳥取県

公開シンポジウム

「土の教育」 始めませんか？

日時：2025年11月29日（土）
10：00～12：00

場所：オンライン（Zoom）
参加費：無料（一般参加可）

＊下記のフォーム（またはQRコード）
からお申し込みください。

<https://forms.gle/mW73XErjX4RVSKbo9>

申込締切：2025年11月25日（水）



皆様は4パーミル・イニシアティブをご存知でしょうか？4パーミル・イニシアティブとは、「世界の土壌の表層の炭素量を年間0.4%（4パーミル）増加させることで、人間の経済活動によって発生する大気中の二酸化炭素を実質ゼロにすることができるといいう考え方に基づく国際的な取り組み」（農林水産省HP）です。

また、「植生を中心とし土壌を環境要素の一つとして、それらの相互作用系を考える生態系の概念」に対し、「土壌を中心に置き、植生をも含めた環境要素の間の相互作用が土壌を生成するという現代の土壌観」が提唱されています（久馬一剛「土壌とは何か」同編『最新土壌学』。朝倉書店、1997年、p.8）。

このように、「土壌」には、私たちの世界の見え方を転換させてくれる面白さがあります。しかし、学習指導要領で、「土」が扱われる場面は極めて限られています。そこで、この度、「土の教育」に関心をもつ先生方と、土壌学の専門家の先生方との間で、「土」をどのように教材化していくことができるのかに関して、共同研究する会を立ち上げることにいたしました。

本公開シンポジウムは、広く一般の方々の参加の下、第1回研究会を兼ねた形式で「土の教育」を議論することにしております。関心のある皆さまには、是非、ご参加ください。

主 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会

共 催：日本学術会議農学委員会土壌科学分科会Soil Health 小委員会

京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM

後 援：一般社団法人日本土壌肥料学会



公開シンポジウム

(第1回「土の教育」研究会)

「土の教育」始めませんか？

次 第

- 10:00 開会の挨拶と趣旨説明
 西岡 加名恵
(日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授・
教育実践コラボレーション・センター長)
- 10:10 「土には名前があるのをご存じですか？」
小崎 隆
(日本学術会議連携会員／愛知大学国際問題研究所名誉教授)
- 10:25 「土の健康ってなんだろう？」
波多野 隆介
(日本学術会議連携会員／北海道大学名誉教授)
- 10:35 「小学校で土について学ぶ」
森 圭子
(埼玉県立川の博物館学芸グループリーダー)
- 10:55 「土の健康を維持し回復するために」
矢内 純太
(日本学術会議連携会員（特任）／
京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授)
- 11:05 総合討論「土の教育への期待について」
- 11:55 閉会の挨拶
西岡 加名恵

※下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員

<問合せ先>

京都大学大学院教育学研究科 教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
e-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



公開シンポジウム
「今求められる水田の地力向上と病害虫・雑草防除を考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会、土壌科学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会

2. 共 催：日本植物保護科学連合

3. 後 援：一般社団法人日本土壌肥料学会（予定）

4. 日 時：令和7（2025）年11月29日（土）13：00～17：00

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可

一般参加者の参加費の有無：無

7. 開催趣旨：

日本人のコメ消費量は年々減少しているが、昨年来のコメの供給不足は価格高騰とともに大きな社会不安をもたらし、増産に向けて政策転換も図られている。一方で、世界的な人口増加や異常気象の中で食料の安定供給は一層重要な課題となっており、それを可能にする技術開発が強く望まれている。コメ増産達成に向けては多くの課題があるが、本シンポジウムでは、安定で持続的なコメ生産に必要な技術について取り上げる。コメの安定生産の基盤となる土壌の地力に加え、食害昆虫、病原菌、雑草による害からの防御の観点から、今求められる技術や課題について討議し、理解を深める。

9. 次 第：

13:00 開会挨拶

13:10 「水田の地力の特性とその情勢および課題」

13:45 「温暖化に伴い発生が拡大する病害に対する抵抗性品種・育種素材の開発」

14:20 「イネカメムシ問題の顕在化と対策」

15:10 「イネの複合病虫害抵抗性機構の解明と強化」

15:45 「水稻乾田直播栽培における雑草防除の取り組みと課題」

16:20 「イネの安定生産に向けて農薬が果たす役割ー持続可能な害虫防除技術の開発ー」

16:55 まとめと閉会挨拶